平成　27　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4791500020		
法人名	有限会社かるすと		
事業所名	グループホームもとぶ		
所在地	沖縄県国頭郡本部町字豊原262-1		
自己評価作成日	平成28年1月21日	評価結果市町村受理日	平成28年2月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=4791500020-00&PrefCd=47&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社　沖縄タイム・エージェント
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10－25　1F
訪問調査日	平成28年2月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

豊かな自然に囲まれた当事業所は見晴らしがよく遠くは八重岳、瀬底島が望め室内は木目を多く使い明るく暖かな落ち着いた環境の中で入居者様と裏庭で小さいながらも畑で育てた野菜を収穫したり海を眺め日光浴を行い天気の良い日はドライブがてら入居者様と買い物や近くの公園へ出かけたりと、恵まれた環境で日々落ち着いて過ごしていただけるよう1人1人のペースを大切に家庭的で楽しく安心して生活できるように支援しています。

当事業所は2014年11月に同法人が開設した4件目の事業所で、開設時に職員全員で「家庭的で認知症の利用者が率直に要望を伝えられ、安心安定した日常生活が営まれる」事を理念に掲げている。同敷地内に同様の認知症グループホームがあり、新年会・敬老会等連携し協力し合って地域住民や友人知人・家族の参加を得て交流を楽しんでいる。当事業所は開設時に入職した職員の離職もなく継続して従事し、新規職員も地域住民や現職員の紹介で入職するケースが多く、職員の国家資格の取得には法人・事業所とも協力的である。利用者の「ゆっくりしたい・家に帰りたい・買い物に行きたい・近所住民や幼馴染みに会いたい」などの要望を聞き取り、利用者の尊厳を大切に誇りを損ねない声掛けに注意し「笑顔」での会話を楽しみ、ゆったりと穏やかな支援を展開していた。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

確定日：平成28年3月18日

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を入社時や施設内に貼り出し 半年に1度ミーティング、で取り上げ全職員に 地域密着型サービスの意義の周知を計り、 地域に出かけるなど、地域との関わりを 継続できるように支援している。	理念は開設時、職員全員で「利用者の今までの生き方を尊重し自由な安心できる」支援をしたいとの想いで作成した。事業所内に掲示し入居前や運営推進会議の委員や地域行政機関に開示し、支援検討等で活用している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町主催の敬老会参加や民謡会の方々の慰問 地域の高校の実習、職場体験を受け入れ 支援している。	事業所主催の新年会・カジマヤー・忘年会は家族・友人・近所の住民や区関係者の参加がある。区や町の敬老会や老人会の行事に参加している。民謡ボランティアの慰問・高校生の職場体験・住民の野菜の差し入れ等がある。	開設から短期間で住民や行政の協力を得て地域に根差した運営を行っているが、一層地域に根差すよう他の介護事業所と連携し要望に応えるよう期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キャラバンにて地域の高校へ講演 活動を行ったり、町主催の福祉祭りに入居者 の作品を出展したりしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新入居者の報告、近況報告を行うなど 施設運営に関わる アドバイスをもらい日々の運営に生かしている。	運営推進会議は2か月に1回定期的に家族利用者・地域住民・介護有識者・役場担当者・社協職員・管理者が参加し、入居者状況・研修報告や他事業所訪問・入居者家族の草刈り・徘徊SOS票の配布など報告検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括職員や福祉課職員へ相談や情報交換などを行い連携を深めている。	町からは介護保険制度改正に伴う運用や解釈について研修案内・災害避難体制や町主催の敬老会や福祉祭りなど行事案内があり、事業所からは生保給付に伴う手続きや後見人制度等を訪問相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会や研修を行い身体拘束での弊害を 職員が理解し日中は出入りは自由に行える ようにしている、1人で出た際は安全に配慮し 必ず職員が付き添いを行っている。	「身体拘束や身体拘束に繋がる行為はしない」事を事業所の方針として掲げ、研修や会議で職員全員が共通理解している。リスクについて利用者家族に入居時説明している。外出したい時は職員が付き添いっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束がなぜいけないのか 認知症中核症状周辺症状 の理解を全職員が周知できるように 不定期だが勉強会を開いている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度を利用している入居者はいないが、役所にて制度についてアドバイスをいただいたり情報を交換したりしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要説明書の説明は入所前に十分説明を行い理解納得されたうえで契約の締結を図っている		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者へは日常会話やアセスメント時に日常生活への要望希望を聞き、家族さんへは面会時に近況報告を行い意見を伺うようにしている	利用者には日々の会話の中から要望を聞き、その都度ドライブや買い物・帰宅等支援している。家族からは来所時に意見を聞き、民謡や踊り・畑仕事・ムーチー作り等にも対応し、事業所便りに写真掲載し配布している。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送り時や日中のミニミーティング毎月のミーティング時に職員から出た意見提案を生かせる様に職員で共有検討を行い運営に反映させている。	月１回の職員会議やミーティングで転倒事故防止等のリスク管理や利用者の対応を検討している。年間研修計画を職員と検討し「排泄用具の使用方法」などメーカー担当者を招き事業所内研修を実施している。レク・民謡・畑等の担当は職員の得意分野で業務分担している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の健康診断の実施や資格所得に向けて、時間的支援や子育て中の職員には子供の発熱や体調不良時には早退したり休みを取れるようにしたり、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の技量経験などをふまえて勉強会を実施している、また認知症介護実践者研修を受け職員のレベルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡会の会員として、3ヵ月に1回会議に参加して情報交換や研修を行い交流を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前と入所後に面談を行いその方の生活状態を把握する様に努めご本人が求めていることや不安を理解することを心がけている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っていることや要望など これまでのサービスの利用状況今まで の経緯をゆっくり耳をかたむけ聞くように している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には可能な限り柔軟な対応を行い場合によっては他事業所のサービスを紹介するなどの対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の得意分野で指導を伺ったり、教えていただきながら力を発揮していただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や要望をご家族へ電話連絡や面会に訪れた際に報告している。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室や店、行事に参加したり 法事など出かけたい場合はご家族へその旨 を伝え、協力してもらったり、職員が 同行し支援している。	地域の敬老会・Xmas・忘年会等の行事に参加し友人知人・老人会や婦人会と交流し、馴染みの美容室や商店・スーパーなどに出かけている。ミニドライブしながら八重岳や記念公園・備瀬のフクギ並木などを訪れ馴染みの場所を継続的に楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間での相性を見極め、会話を楽しめるように席決めを行い孤立しないように 支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了者が（他界）1名の為 こちらからのアプローチは特に とってはいないが告別式に伺ったりし 相談があれば受け付けている		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前に希望要望を本人と家族から聞き取りを行い入所後も日常会話などから本人 の暮らしの希望、要望を聞き本人の意向 を把握するように努めている。	日常会話の中で「何もしたくない・調理はしたくないが美味しい物（ラーメン・蕎麦・ステーキ等）が食べたい・穏やかに過ごしたい」など様々であり、失語症の利用者も頷きや仕草で確認し、要望に沿った個別支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、友人、知人より話を伺い生活歴の 把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	歩行状態、バイタル測定、食事摂取動作 会話などを通して把握に努めている		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常会話の中から本人の希望や意向を聞き 面会の折りに家族の希望や要望を聞き 申し送りやミーティングでスタッフから 意見を聞いている。	サービス担当者会議には利用者家族・職員・管理者・介護支援専門員が参加し要望に沿った目標を掲げケア計画のメニューを定め家族の承認を得て支援を提供している。経過記録はケア計画に沿って記録しモニタリング・評価は介護支援専門が定期的に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートを活用し情報の共有を 行っている、ミーティングでの報告や 個別記録を通し介護計画に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々の希望や意向 本人の状態に合わせたケアを心がけている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出や買い物などの支援を通して 地域のつながりを心がけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1度の訪問診療時で主治医に上申したり 状態の変化等を伝え適切な医療を 受けられるように支援している。	利用者は以前からのかかりつけ医を継続し月１度家族対応で受診をしている。協力医療機関の医師による訪問診療を月１回受診している利用者もいる。診察内容は家族の報告や投薬説明書等で即日職員へ周知し情報共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入院時には面会へ行き、看護師や医師に 話しを伺うようにしている 退院時のカンファレンスも出席するように している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には日常生活や服薬・身体状況の 報告を行い・見舞いの時は必ず医師や看護師 との情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時やケアプラン見直し時に本人、家族 と話し合いを行い終末期の希望を聞き取りを 行っている。	利用開始時、重要事項説明書の「重度化した場合における（看取り）指針」を示し本人家族へ説明を行い同意書を交わしている。日常的に会話の中から（テレビに流れた有名人の訃報をきっかけに）理想とする自身の看取りについて、本人の想いを引き出すよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生法など消防署で消防職員より 講習を定期的に受けたり、定期的に施設にお いて再確認を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	まだ避難訓練実施自体少ないが 火災訓練を消防職員参加で職員全体で行い 非難経路の把握、消火方法などを身につけて いる、今後実施回数を増やし、地震や水害 の非難訓練を行う。	開所間もないが、消防立ち合いのもと、第1回の火災訓練が行われ、地域住民2名の参加もあった。避難先マップも入手しているが、事業所が広い高台にあり好条件の立地の為、災害時の地域受け入れを検討している。	昼夜を想定して年2回以上の災害訓練が義務付けられているので、2回以上の実施が望まれる。災害時の地域受け入れ環境（十分な備蓄等）及び協力体制作りに期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導声かけや入浴など同性職員が行いカーテンを閉めるなどプライバシーの確保に努めている、普段の会話でも人生の先輩として話しかけをおこなっている。	日頃の支援のなかで、丁寧な言葉使いや、誇りを損ねない声掛けに注意している。利用者一人ひとりの得意とすること、出来ることを引き出し活動を取り入れている。発語がない方からは、仕草等から意向を汲取り支援している。個人情報ファイルのラベルは番号で管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	落ち着いた気持ちで接し話やすい環境を作りひとり1人に合わせ自己決定ができる話しかけをおこなっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が強制することなくその日の入居者のペースを大切にしテレビを鑑賞したい方居室で休みたい方各々のペースを大切にしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人個人のマニュキュアやくしを準備しいつでもおしゃれができるように準備している 馴染みの美容室へ家族と出かけたり 職員が好みの髪型にカットしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の力を見極めできる方には 食事の下ごしらえを職員と一緒に手伝ってもらいその人の力を発揮していただいている 出来ない方にもテーブル拭きなどを手伝ってもらっている	利用者の嗜好を把握したうえで献立を作成し、事業所内で3食とも職員が調理している。食材の下ごしらえは利用者も手伝い食後は下膳もしている。職員全員が同じ食事を利用者と一緒に円型テーブルを囲み、おかわりに応じながら会話を楽しみ食事していた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取、食事摂取量が少ない入居者には好みの飲み物食べ物を提供したり 食事時間をその日の本人のペースに合わせ提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	今のところほとんどの方が自分で磨けるが準備が必要なかた、その人の力に合わせ支援を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとり1人の排泄パターンを把握し日中は居室トイレや共同トイレにて排泄を行っている	排泄チェック表で排泄パターンを把握し声掛け誘導を行っている。昼夜排泄が自立している利用者もいるが夜はパットやポータブルを使用している方もいる。職員は研修等でオムツ使用がもたらす弊害の理解を深めケアしいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩を行ったり、便秘予防体操を行っている 食事に関してはヨーグルト、牛乳の提供や繊維食提供を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴曜日は決まってはいるが、本人の希望で曜日を変えたり時間をずらしたり 個人の希望を取り入れている。	週に3度を基本としているが、本人の希望する夕方や就寝前の時間や、家族との外出前等にも対応している。衣服の選択は利用者が行い、入浴時は好きな石鹸やシャンプーを使用している。脱衣所はエアコンを設け入浴後の整容がゆっくりできるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人が休みたい時に休息され 入居者の生活リズムを大切にしている 使い慣れた寝具を使ってもらい 気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別日誌やレスキューシートに薬名、症状を添付し職員が把握しやすいようにしている 薬の変更があった場合は連絡表や 申し送りノートに添付している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみや洗濯干し、お茶葉の袋づめや野菜のカット、チラシでのゴミ袋つくりなど 個人の特技を活かし役割を持っていただいている、また、ドライブや民謡ボランティア の慰問など楽しみの時間を支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に職員が役場や買い物する際は 入居者にも声をかけ外出支援をおこなっている、本人の希望があれば家族、職員同行 で外出できる体制をとっている。	車椅子利用の5名の方も全員で遠出をする機会が年に2度あり、日常的に近隣散策や商店での買い物、ドライブを行っている。本人から「○○へ行きたい」等の要望があれば個別に対応している。調査当日も午後からお焼香の要望の支援をしていた。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの入居者が金銭管理が難しい為 家族や職員が管理している、希望があれば職員が付き添い支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が連絡を取りたい時に自由に電話を使用できるように支援している。 ご家族にも入居契約の際本人の希望があれば電話を行う旨を伝えている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空気の入れ替え時に外気温との気温差が変わらないように注意しその際に不快でないかの確認を行っている。 また音に敏感な方にはなるべく大きな音を立てないように配慮している	玄関、リビングの壁に利用者と一緒に作成した作品や、イベントに参加した際の写真等が飾られている。リビングや各居室の窓ガラスは、テラス風で中庭へ繋がり事業所を一周できる。庭にはネギを植えたり、花や緑のプランターを置いて季節感を採り入れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者同士お互いの部屋へ行き来することもあり、楽しくゆっくり会話が出来るようにお茶やお茶菓子を用意したり、又1人になりたいと感じさせる場合は必要以上に 深追いせず、入居者のペースに沿うように 心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や飾り物など本人の好みやご家族から 本人が使い慣れた物を持ってきていただき 本人主導で配置を行っている 掃除で居室に入室する際配置が変わらないよう注意をしている。	居室にはベッド、カーテン、エアコンが備え付けられ、トイレを設けた居室もある。家具や小物等は本人の馴染みの物を持ってきてもらうようにしている。お気に入りの本や、ぬいぐるみの持ち込みがあり、壁には家族の写真や製作品等が飾られている。窓枠も大きく季節の移り変わりや風光も楽しめる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレのシャワー室の場所、使用中の明記 居室入り口に名前を張り出しひと目でわかるようにしている、ベッドの高さや位置等も その人にあった高さに調整している		